
～ 廃村探して幻想入り～

あんころもち

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

～ 廃村探して幻想入り～

【Nコード】

N8885W

【作者名】

あんころもち

【あらすじ】

廃村に行き調査を開始する、主人公であつたが…

幻想入りしたくて、
書いてみました。

至らない点も多いと

思いますが、批評、感想等書いて下さると嬉しいです♪

プロローグ（前書き）

今回、プロローグみたいなやつです。

未熟者ですが、
よろしくお願いします。

プロローグ

「霧が濃いな…」

私はネットで見つけたとある廃村に向かって車を走らせていた…

大学でのサークル活動として来たんだが…

今から行く廃村には、

曰く付きの噂がある。

噂というのは今から恐ろしく昔の言い伝えである

およそ二百年ほど前は

商業や農業がさかんな、いたって普通の村だったそうだ。

しかしその村がいきなり「消えて」しまったらしい…

当時の人達の証言によるとまるで神隠しにあったようだ、と語っていると書いていたそうだ。

最近までは大昔の話で

あったと思っていたが…

また神隠しが「再開」されたらしい。

く??と??2の会話く

? 「また、に行かれるのですか?」

? 2 「何か悪い?」

? 「いえ…それより仕事は…」

? 2 「それじゃお仕事頑張ってね」藍」

？「（無視かよ！？）ちょ…待つ…」

そして、彼女は、「スキマ」に入っていた…。

プロローグ（後書き）

次話から、本格的に進んで行きます!!
長文読んで下さりありがとうございます。

幻想入りかね？（前書き）

主人公は、気が付いていませんが、一応幻想入りしてます。
駄文、短文ですがゆっくりしていつてください。

幻想入りかね？

〈主人公視点〉

私は「神隠し」の調査に来てるのは、サークル活動だけではない。その神隠しの被害者が、私の友人のタクだったのだ…

どうやらタクは、ここに来たというのだ。

だけど村には何もないから、

森の中の入ったんだけど…みよんに暗いなあ…真っ暗だ。一旦車に戻ろう。

〈2時間後〉

ヤバい…完璧に迷った…

ケータイも圏外だし…

「人間がここになにしてるの？」「いや、ちょっと迷子で…」

…！！「誰だ！」

振り向くと…少女が…縛られていた。（文字通りに）
と、とりあえず縄を解いてやらないと…！

幻想入りかね？（後書き）

どうも読んでくれてありがとうございます。

少女は鳥目にしちゃうあの娘です。

次はすぐにあげるんでよろしくお願いします。

初めてのみすちー（前書き）

話があんま進まない…

今回は、初めての妖怪ですね。

中身が薄いですが、よろしくね。

初めてのみすちー

（主人公視点）

私は、少女に話しかけようとしたが…

「……………（黙）」

なんか悪い事でもした？俺…

「誰…？こんな夜中に魔法の森に来て…？」

「ああごめん私は、ボウという。よろしくね。」

「私はミスティア・ローレライだよ。こちらこそよろしくね♪」
自己紹介済んだところで…

…なんでそんな格好してるんだ？

「そんな格好って…あっ！もしかして外人？」

「…外人？外人って？」

私は、戸惑って二回言ってしまった。

すると彼女は、

「あゝ大丈夫、大丈夫。助けてくれたし、今日はとって食べたりしないから」

あの…だから、外人って言うのは…何なの…？

「とりあえず、お礼とか幻想郷の説明したいし、ちょっと私の屋台

まで来てよ」

もう良くわかんねえや…とりあえず屋台やらに、ついて行こう…

私は（´・ω・｀）↑こんな顔になりつつ少女に、
付いて行っただ…

↓武装した二人の会話↓

「おい、逃げちまったじゃねーか！」

「妖怪に味方するなんて…変な人間だ…」

「また、私達の敵が一人でましたね…人間の…」

「今度こそ…今度はこそは私達、人間達の手で革命を起こすんだ…」

「！！」

初めてのみすちー（後書き）

読んでくれてありがとうございます。

何げに自己紹介してみたり。

主人公のスペックを一応

くボウく

性別 男♂

容姿は… ちょいイケメン

性格は、安定してない。

大学生で愛煙家。

能力は… まだ内緒ねww

屋台での会話（前書き）

遅くなってすいませんでした。リアルに忙しくて更新遅れました。話はあまり進みませんが良かったらゆっくりしてイッてください。

屋台での会話

（ボウ視点）

夜雀庵か…

中々雰囲気がある屋台だな…

「ささ、座って」

私は座布団が置いてある椅子に座った。

「さて…まず何を聞きたい？」

彼女は、魚らしき物を焼きながら言った。

それじゃまず…

「幻想郷の意味を教えてください。」

彼女は振り向きながら

「幻想郷はね、私みたいな妖怪や妖精、神とかが住む場所だね。」

と行った。

……え？なんとおっしゃいました？

「大丈夫大丈夫」とりあえず八目鰻でも食べて、ゆっくり聞いてよ」彼女は、無邪気に笑って語り始めた…

みすちー色々説明中…

「うん…大体分かった…」私はとても信じられないが、確かに言う通りだ…ちなみに彼女は夜雀と言って、人間を鳥目にしたり、襲ったりする妖怪らしい。

だが…

「なんで俺は、この世界に…？」

彼女は困ったように

「私にそんな事言われても…」

ですよ…

「これからどうしよう…」タクも探さないといけないのに…
すると彼女は

「うーん…とりあえず夜が明けるまでここにいなよ。明日は帰れる
かどうか博霊神社に送ってあげるからさ」

とりあえず彼女に甘えてはここに居させてもらおうか…

屋台での会話（後書き）

アイデア等くれた人ありがとうございます♪

絶対出します！！

次回はボウが来た理由ですかね…

良ければ、次回もお願いします♪

出たな!! ゆかりん (前書き)

才能無さ過ぎだわ w w

俺 w w

こんな俺でも良かったらゆっくりしててっね...!!

出たな！！ゆかりん

（ボウ視点）

ん…どうやら私は屋台で寝てしまったらしい…
屋台じゃないな…ここは…

「ふああ…ここは？」

なんか気分が悪くなりそうな空間…

「あら、おはよう。随分寝坊助なのね。」

ああ…はい…すいません…って誰！？

「あらあら、そんな身構えなくてもいいわよ」

彼女はクスクスと笑って言った。

胡散臭い…

「あんたは誰だ。それとこの空間は…？」

「ああ、紹介が遅れたわ私は八雲紫。ゆかりん　って呼んでもいいわ」……？

「ああ…はいよろしく紫さん。私はボウと言います」
軽く自己紹介。

「それで…私に何の用ですか？」

紫さんは少し真剣に

「ああ…実はあなたに頼みたい事があるのよ。」頼みたい事？

「人を探して欲しいのよ。」

「人捜し？まあ、いいですけど…どんな人なんですか？」

「分からないわ。」

即答…

「探しようがないじゃないですか…」

私は頭を掻きながら、返した。

「まあ焦らずに探してちょうだい。

いずれあなたは、必要になるわ。」

私は、黙って頷いた。

「今日呼んだのはそれだけ。また何かあったら、連絡するわ。」
そう言われた瞬間――

落ちた。

言葉通りに。

出たな！！ゆかりん（後書き）

読んでくれてありがとう。

少しずつ…少しずつ進歩したいです…

次は神社行く予定。

次話もよろしく???

ゝ始まる幻想入りゝ（前書き）

五百人も私の駄文を読んでくださるとは…嬉しいです♪

かなり嬉しいんで壁頭突きます♪

こんな私でも良かったら…
ゆっくりしていつてね！！

く始まる幻想入りく

く八雲紫視点く

「さあ、帰りましょ。」

さあ あの子がどうなるか
楽しみだわ…

>八雲家<

「今日は疲れたわ」

彼女が仕事を終えた満足感に浸っていると

「紫様、また人里に例の者が…」

これは、私の式神の八雲藍。主に私の雑よ…サポートに使ってるわ。

「先に帰るわ。大丈夫よ 人里に来てるのは、大して武装してないわ。里の人間に任せましよう。」

「しかし、紫様はなぜあんな外来人に…」

そんなの分かってるじゃない——

「面白そうだからよ。」くボウ視点く
うつ…あの女いきなり地べたに落として…

最後に何か渡されたけどなんだこれ？

「あ、おはよう。そんな所で寝てて…寒くないの？」

彼女は上から心配そうに言った。

優しいやつだなあ…

「好きにこんなところで寝るわけないだろ…よつと」
私は砂埃を払って立ち上がった。

「ところでその変な形の仮面は何なの？」

「これは…何だろ？」

よく見ると昔、おばあちゃんの家似てるもんが合ったような…

いや今考えるのは止めよう——今は帰ってタクを探さないとな。

「まあ、それはいいとして早く元の世界に戻らないと…」
私は仮面を首に下げてから彼女に言った。

「それじゃ私の手繋いで、今日は空を飛んで行こうか」
彼女は私が手を繋いだら——飛んだ。ふわりと体が浮遊して、重力が無くなった。

「…！？やっ、止めて！怖いよ怖い——」
この時、私は初めて気絶というものを体験した……。

～始まる幻想入り～（後書き）

話が進まねえ…

身勝手ながらアンケート取らせください。

元の世界に帰るために博霊神社に向かったけど
帰れない…

こっからアンケート～

？人里に行き働き手を探す（もこ、けーね宅）

？みすちーと屋台旅

？フリー

良かったらでいいので
よろしくお願いします。私もかなり助かりますので…感想等に書き
込んでください。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8885w/>

～ 廃村探して幻想入り～

2011年11月8日01時03分発行